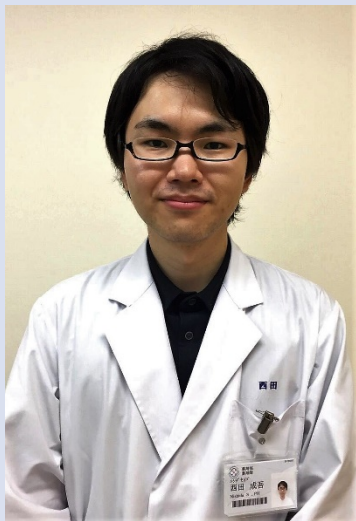


実際に働いている先輩から一言

西田 成吾 さん (2020年4月入職)



大学6年間を過ごした佐世保市に恩返しをしたいと思い、市内の病院で薬剤師として働くことを決めました。

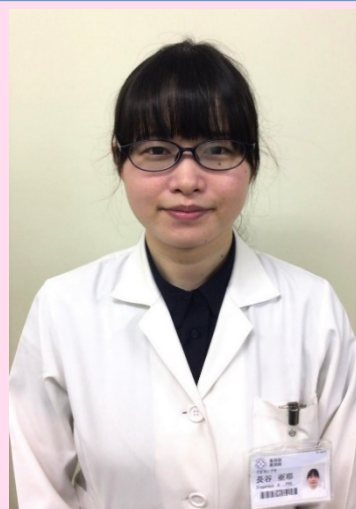
佐世保市総合医療センターは多数の診療科があり、地域の基幹病院として大きな役割を担っていますので、私にとっても大きな成長につながると考えました。

業務を少しずつ経験していく中で、自分に出来る事が増えていくのを実感しています。まだまだ知らない事が多く未熟な私ですが、今まで学んできたことは少しずつ仕事に活かすことができていると思います。処方箋と患者さんの検査値から薬について必要な情報を医師に提供し、その内容が患者さんの治療に役立った時には、やりがいを感じました。指導をしてくださる先輩がいらっしゃるので、困った時はすぐに質問をするようにしています。また、同じ大学の先輩方もおられるので、入職した時から気にかけてもらえて、とても心強いです。

長谷 亜耶 さん (2020年4月入職)

地元の医療に貢献したいという思いから、佐世保市の病院に就職しました。入職して感じたことは、「患者さん」という存在の大きさです。大学時代の勉強は薬に焦点を当て、その作用機序や副作用を学ぶことが中心でした。しかし、現場では患者さん一人ひとりに焦点を当て、薬に限らず、様々な情報を総合的に見ていくことが重要です。これまで本で学んできましたが、実際に処方やカルテを見て学ぶことも多いなと実感しています。

まだまだわからないことは沢山ありますが、先輩方に教えていただきながら少しずつ成長していきたいと思っています。



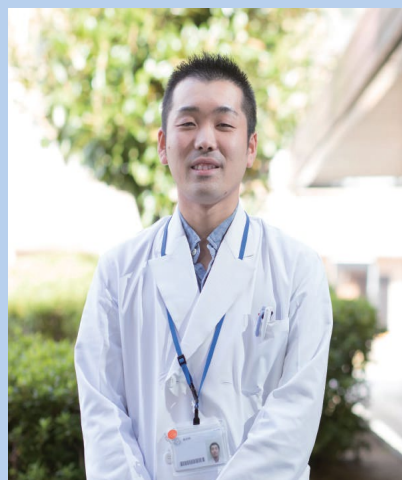
石山 明人さん (2012年4月入職)

私は、創薬・研究を目指して大学に入学しましたが、実務実習時に患者さんと接し、他のスタッフの方とコミュニケーションを取っていく中で「治療に直接関わりたい」との思いが強くなり、病院薬剤師になりました。

今でも印象に残っているのは、医師に自分の思いを上手に伝えられず、うまく関係を築けていない患者さんのことです。服薬指導の中で患者さんの考えを傾聴し、医師にその思いを伝え、薬学的介入を行った結果、症状をコントロールできるようになり退院された症例を経験しました。退院後もしばらく電話での対応を続け、ご家族より感謝のお言葉をいただいた時、患者さんと接することのできる病院薬剤師になって本当に良かったと思いました。

当院は多数の診療科があり、疾患に関しても幅広い知識が身につきます。その中で、病気と薬の関係は薬剤師にしかわからないもので

これからも薬剤師の視点から、患者さんに寄り添った提案を行い、医療の第一線で頑張っていきたいと思っています。



佐世保市総合医療センター 💊 薬剤部紹介 💊

- 薬剤部について詳しく知りたい人はホームページをご覧ください↓↓

- [薬剤部 | 地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター \(hospital.sasebo.nagasaki.jp\)](http://hospital.sasebo.nagasaki.jp)

